

分野融合基礎A 「『飛鳥』を『あすか』と読むのは何故か。科学的に思考してみよう」 教員指導案

- (1) 目標：岡高キー・コンピテンシーである「知識を統合する力」「課題発見力」「文章表現力」を伸ばす。
- (2) 方法：文系(地理・古文・日本史)の分野融合的な研究事例を題材に、科学的に思考する力を養う。
- (3) 教材：①「『飛鳥』を『あすか』と読むのは何故か」教員指導資料 (A4両面1枚)
 - ②「『飛鳥』を『あすか』と読むのは何故か」ワークシート1～3 (A4片面2枚・A4両面1枚)
- (4) 持ち物：筆記用具、AKC ファイル、タブレットPC
- (5) 事前準備：①班分け(4人1組)→各クラス担任で編成。授業開始前に、班ごとに机を合わせておく。
 - ②上記(3)の②、ワークシート(人数分)印刷
- (6) 担当者：

(7) 本時の指導計画

| 段階 | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点 |
|--------------|-----------------------------|---|---|
| 導入 2分 | 本時の目標 | ・本時の目標(上記(1))を理解する。 | ・本時の目標は、上記(2)を題材に、上記(1)を修得することだと説明する。 |
| 展開 1-1 3分 | ワークシート1 Activity1 | ・【1学期AKCの振り返り】を読み、要点を確認する。 ・[Ac'1]に自分の考えを記入する。 | ・「ワークシート1」を配付。 「ワークシート2」配付厳禁 ・【1学期AKCの振り返り】を確認させる。 ・【今回のAKC】を読み上げ、[Ac'1]に各自で静かに取り組ませる。 |
| 展開 1-2 3分 | ワークシート1 Activity2 | ・班員と意見交換をして、[Ac'2]を記入。 | ・[Ac'2]に班で取り組ませる。 (なお、[Ac'1-2]は、研究ではなく調べ学習) |
| 展開 1-3 6分 | ワークシート1 Activity3 | ・教員とのインラクション([Ac'3]) ・「飛鳥」を「あすか」と読むのは、「飛ぶ鳥の」が「あすか」の枕詞だからとの「理由」を得た後、「それでは『あすか』の枕詞が『飛鳥』となる『理由』にならない」と指摘。 | ・一部の班代表に発表させ、[Ac'3]に取り組む。 ・多くの班で「飛ぶ鳥の」が「あすか」の枕詞だからとの「理由」を得た後、「それでは『あすか』の枕詞が『飛鳥』となる『理由』にならない」と指摘。 |
| 展開 2-1 2分 | ワークシート2 【資料1】 | ・【資料1】を読む。 | ・「ワークシート2」を配付。 ・【資料1】を各自で静かに読ませる。 |
| 展開 2-2 3分 | ワークシート2 【資料2】 | ・【資料2】を通して、足利健亮の考え方を理解し、通説を反証した点を理解する。 | ・【資料2】を説明する。 ・仮説から追検証までを確認させ、足利健亮が通説を反証した点を理解させる。 |
| 展開 2-3 6分 | ワークシート2 Activity4 | ・[Ac'4]に自分の考えを記入する。 以降タブレット使用不可 | ・[Ac'4]を読み上げ、各自で静かに取り組ませる。 (なお、[Ac'4]からが、調べ学習ではなく研究) |
| 展開 2-4 5分 | ワークシート2 Activity5 | ・班のメンバーと意見交換しながら、[Ac'5]を記入。 | ・[Ac'5]に各班で取り組ませる。 (時間があれば各班代表に発表させる) |
| 展開 3-1 3分 | ワークシート3 【資料3】 | ・【資料3】を読む。 | ・「ワークシート3」を配付。 ・【資料3】を各自で静かに読ませる。 |
| 展開 3-2 6分 | ワークシート3 【資料4】 | ・【資料4】を通して、足利健亮の科学的思考を理解する。 | ・【資料4】を説明し、「飛鳥」を「あすか」と読む理由を、仮説～検証を通して理解させる。 |
| 展開 3-3 5分 | ワークシート3 Activity6 | ・[Ac'6]に自分で論述する。 | ・[Ac'6]を読み上げ、各自で静かに論述させる。 (時間がない場合、展開 3-3 と 3-4 を省略してよい) |
| 展開 3-4 4分 | ワークシート3 Activity7 | ・班内でワークシートを交換しながら、[Ac'7]を行う。 | ・[Ac'7]に各班で取り組ませる。 (時間がない場合、展開 3-4 を省略してよい) |
| まとめ 2分 | 本時のまとめ | ・文系の研究や、分野融合の研究について理解する。 ・AKC ファイルにワークシート1・2を綴じ、3を提出。 | ・「研究は文理ともに科学的であり、分野融合により解決できる事象がある」ことを確認させる。 ・ワークシート3のみ回収し、担任裁量で検閲。 |

※参考：足利健亮『地図から読む歴史』講談社学術文庫(講談社), 2012, 234-237 頁。

1年 探究AKC I

分野融合基礎A 「『飛鳥』を『あすか』と読むのは何故か。科学的に思考してみよう」

**教員指導案の展開 3-3,4 を
下の代替指導案で行ってもらって 3 も かまいません。**

現

| | | | |
|---------------|------------------------------|--|--|
| 展開 3-3 5 分 | ワークシート 3 Activity6 | ・ Ac'6 に自分で論述する。 | ・ Ac'6 を読み上げ、各自で静かに論述させる。 (時間がない場合、展開 3-3 と 3-4 を省略してよい) |
| 展開 3-4 4 分 | ワークシート 3 Activity7 | ・ 班内でワークシートを交換 しながら、 Ac'7 を行う。 | ・ Ac'7 に各班で取り組ませる。 (時間がない場合、展開 3-4 を省略してよい) |



代替

| | | | |
|---------------|------------------------------------|--|---|
| 展開 3-3 5 分 | 参考資料 ワークシート 3 【資料3-4】 | ・ 三河の地名を題材に枕詞 を考え、枕詞の文字と地 名の音を合成・短縮し、新 たな地名表記を、班内で 意見交換しながら書き出し てみよう。 | ・ 三河の地名を例に考察させる。 ・ 例に挙げた地名の枕詞として、班員のみんなが納 得のできるものを考えさせる。 ・ 短縮の技法は、ここでは「元の地名の音」と「枕詞の 漢字」とする。 (時間がない場合、展開 3-3 と 3-4 を省略してよい) |
| 展開 3-4 4 分 | 発表 | ・ 班の代表が、出てきた「地 名」と「枕詞」を発表する。 | ・ 班代表に発表させ、出てきた「地名」に「ふりが な」を振って板書する。 (時間がない場合、展開 3-4 を省略してよい) |

* 期末前に 1 時間余った 3 年文型地理で、この指導案をやってみました。

最後は代替案で行ってみたら、好評でした。

出てきた「地名」

石炭…石炭火力発電所で有名な碧南市だから、枕詞「石炭の」碧南。

車…トヨタ自動車の本社がある豊田市だから、枕詞「車の」豊田。

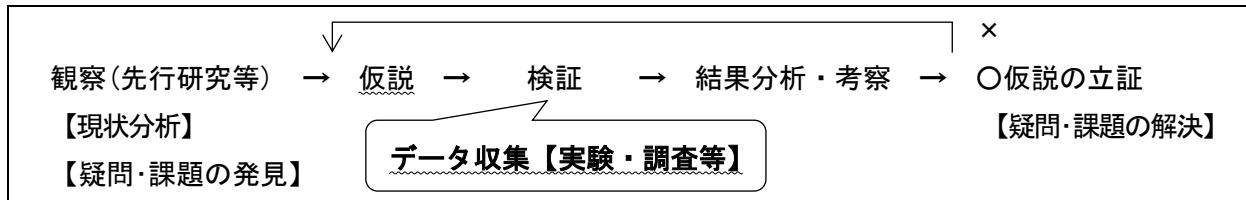
東岡崎…東海オンエアの聖地が東岡崎駅周辺に多いから、枕詞「東海オンエアの」東岡崎。

そして東海オンエアが忘れられた百年後には、東・岡崎と解釈され、岡崎を「かい」と呼ぶのが新たな謎になっているとのこと。

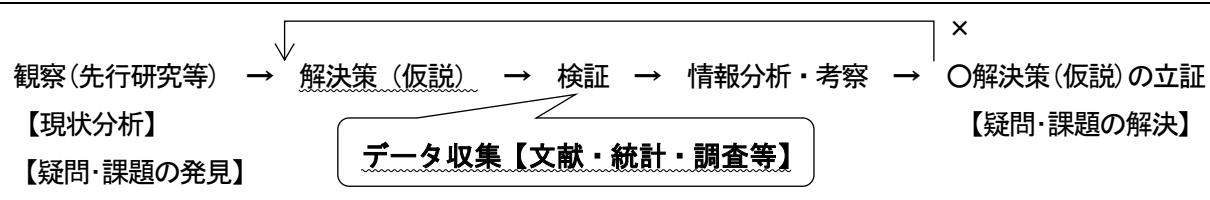
科学的思考:「『飛鳥』を『あすか』と読むのは何故か」(文系の分野融合的研究を事例に)

【1学期AKCの振り返り】 「ゼンメルワイス医師の産褥熱の研究」等を通して、仮説から検証までの過程を理解し、「紙コップの不思議」等を通して、その科学的思考を実践しました。また、「探究活動発表会」とその振り返りを通して、文系と理系の研究における相違点や共通点を理解しました。次の図は、その確認です。

<理系の研究>



<文系の研究>



【今回のAKC】 科学的思考を、「地理」「古文」「日本史」の分野融合的研究を事例に行います。テーマは、

とぶとり／ヒチョウ
「飛鳥」と書く地名を、「あすか」と読むのは、なぜか。

「飛鳥時代」や「飛鳥文化」など、歴史的・文学的に重用されてきた地名の表記「飛鳥」を、「あすか」と読むのは、なぜでしょうか。まずは、上の図<文系の研究>における「観察(先行研究等)」を行いましょう。

Activity1 : 地名表記「飛鳥」を「あすか」と読む理由について、先行研究(既に発表・公開されている情報)を、「自分自身」で調べてみましょう。(タブレット使用可)

Activity2 : Activity1について、「各グループ」で情報と意見の交換をしましょう。(タブレット使用可)

可能ならば、収集した【「飛鳥」を「あすか」と読む理由】に、問題点(反証の余地)がないか考えてみましょう。

Activity3 : Activity1について、「各グループ」のうちで多かった論拠を発表し、「クラス」で共有しましょう。

【資料1】 地理学者：足利健亮の『NHK人間大学』テキスト「景観から歴史を読む 地図を解く楽しみ」より

さて、「飛鳥」はなぜ「あすか」と読むのでしょうか。これについて私は、まずいくつかの辞書を見ました。ある地名辞典は、「あすか」の枕詞に「飛ぶ鳥」の句が用いられたため「飛鳥」と表記する、と説明しています。ある百科事典も、「飛ぶ鳥のあすか」とよぶ枕詞の「飛ぶ鳥」から出たもの、と同類の説明をしていました。また、ある国語辞典は、「飛鳥」の字は「明日香」の枕詞「とぶり」を当てたもの、と説いていました。

(中略) そういう説明にとどまるとすれば、辞書類の読者は誰も十分納得できないのではないかと思ったのです。

「飛鳥(とぶり)」は、確かに「あすか」の枕詞です。しかし、なぜ「飛鳥(とぶり)」「あすか」の枕詞になったのかを説明することから始めなければ、正確な理解には到達できないのではないかと思うのです。枕詞という一言で片付けてしまうことは、正解に至る道を閉ざしてしまうという点で危険です。ある言葉がもう一つの言葉の枕詞になるためには、当然それなりの理由があるはずです。残念ながら先に見た辞書には、どこにもその理由が記されておらず、「あすか」の用字に枕詞がすりかわって入りこんだ理由についても一切述べられていません。これでは何も分からぬのです。

【資料2】 <足利健亮の考察と補足>

仮説(通説) : 「飛鳥(とぶり)」を「あすか」と読む理由は、「飛ぶ鳥の」が地名「あすか」の枕詞だから。 非演繹

検証(調査) : 「飛鳥(とぶり)」を「あすか」と読む理由を、辞典類で調査した。 演繹

→ **成功(確認)** : 「飛鳥(とぶり)」は、確かに「あすか」の枕詞である。

→ **失敗(疑問)** : なぜ、「あすか」の枕詞が、「飛鳥(とぶり)」となったのか。

追検証 : 「あすか」の枕詞が「飛鳥(とぶり)」となった理由について、辞書類で調査した。 演繹

→ **失敗(反証)** : 「あすか」の枕詞が「飛鳥(とぶり)」となった理由は不明である。

※ 「仮説(通説)」は、「検証(調査)」により、「反証(否定)」された。

補足①【枕詞】 被修飾語を、それに関する語意で修飾する語句。歌中では意味をもたないので、訳出しない。

例：枕詞「あおによし」 → 被修飾語「なら(奈良)」 … 建物の(窓枠の)碧(緑色)と(柱の)丹(朱色)が美しい平城 京

補足②【「あすか」の語源】 不明。語源の追究は行わない。(水掛け論か、荒唐無稽な論になるため)

補足③【文献や地名に遺る「あすか」の表記例】 明日香・阿須賀・阿須箇・阿須可・阿須迦・安須可・安宿

「あすか」の表記が多種あることから、漢字表記より先に「あすか」の発音が存在していたと考え得る。

Activity4 : 上記補足③ 文献や地名に遺る「あすか」表記の例のうち、「あすか」を修飾する枕詞が「飛ぶ鳥の」となり得る表記が1つあります。どれでしょうか。また、「あすか」を修飾する枕詞が「飛ぶ鳥の」となった理由について、「自分自身」で考えてみましょう。(以降タブレット使用不可)(他の枕詞の由来などを辞書で調べるのは可)

- 「飛ぶ鳥の」が掛かり得る地名【 】
- その理由

Activity5 : Activity4について、「各グループ」で話し合いましょう。(時間ががあれば、クラスで共有しましょう)

- 「飛ぶ鳥の」が掛かり得る地名【 】(【 】【 】【 】)
- その理由

【資料3】足利健亮の『NHK人間大学』テキスト「景観から歴史を読む 地図を解く楽しみ」より

「あすか」のもともとの意味は、不明と言るべきです。が、ともかく「あすか」と呼ぶ土地・地域があつたはずです。そこへ漢字文化が流入し、「あすか」に漢字が当てられることになった。その時に当てられた漢字は「安宿」があつたに違いないと思います。「安宿」の用例は河内國のいわゆる「近つ飛鳥」地域(※1)の郡名にありました。これならば間違いなく「あすか」の音に合致します。さらに光明皇后(※2)が安宿媛という名であった事実があります。これは奈良時代の初めに「あすか」を「安宿」と表記していた証拠になります。

そして重要なことは、はじめ「安宿」の字が用いられたからこそ枕詞が「飛ぶ鳥の」となり得たということです。「安宿」は「やすやど(※3)」などではありません。「やすらかなやど」と解するのが雅というものです。そして、「やすらかなやど」であるならば、飛ぶ鳥も好んで羽を休めたに違いない。そういう文脈の中で、「飛鳥」が枕詞となり、「飛鳥(とぶとり)の安宿(あすか)」という表現が成立・普及することになったと解すべきなのです。

次いで、古代日本人が好んで行つたらしい「短縮」の手法が加えられました。それは「とぶとり」という発音を略し、「安宿」という文字を略して、「あすか」の発音を「飛鳥」の文字に結合するという手法にはかなりません。これと同様な「短縮」の手法は「下毛野」の「毛」の文字と「ぬ」の発音を略して「下野」とした例、「近淡海」の「ちかつ」を略し、「淡」の字を落とし(且つ「海」を「江」字に変えて)「近江」と作った例など、いくつも見られるのです。

『万葉集』では「明日香」の字が使われていますが、これは『万葉集』の風雅であつて、「明日香」の用字が漢字到来の最初にあてられていたならば「飛ぶ鳥」が枕詞として成立するはずはなかった。これは大事なことです。

※1 【近つ飛鳥】大阪府羽曳野市東部や南河内郡太子町などを指す古代の地名。大和國の飛鳥と区別するため、難波宮(大阪市)から見て近い河内國の飛鳥を「近つ飛鳥」「河内飛鳥」、遠い大和國の飛鳥を「遠つ飛鳥」「大和飛鳥」と称した。

※2 【光明皇后】(701~760) 藤原鎌足の子である藤原不比等の子。聖武天皇の皇后。仏教の信仰が厚く、孤児や病人の救護施設をつくった。

※3 【やすやど】宿泊代の安い施設。転じて、安らぎを得られるサービスや環境などの質が悪い施設。(今日では使用上、注意を要する語)

【資料4】<足利健亮の考察と補足>

仮説 : 地名「あすか」を、漢字で初めに「安宿」と書いたから「飛ぶ鳥の安宿」という枕詞が生まれた。 非演繹

検証(調査) : 表記「安宿」の用例を、文献や現地などで調査した。 演繹

→ **成功(確認)** : 「河内国安宿郡」や「安宿媛」などの用例が、奈良時代初頭には存在した(※1)。

※1 地名「近つ飛鳥」が、明治以前に遡り得ることは、「今昔マップ on the web」でも証明できる【裏面】

情報分析(考察) : 「安宿」と表記される地名だったから、その枕詞が「飛ぶ鳥の」となった。 演繹

→ **成功(論証)** : 「安宿」の枕詞として、「飛ぶ鳥が羽を休める『安らかな宿』」は、成立し得る。

※「仮説」は、「検証(調査)」と「情報分析(考察)」により、立証された。

仮説 : 「飛ぶ鳥の安宿」は、「短縮」手法により、「飛鳥=あすか」となった。 非演繹

検証(調査) : 「短縮」手法の事例を、文献などで調査した。 演繹

→ **成功(確認)** : 「下毛野」を「下野」、「近淡海」を「近江」など(※2)の用例がある。

※2 他には、「上毛野」を「上野」、「遠淡海」を「遠江」、枕詞「長谷の」と地名「初瀬」から「長谷」など。

なお、足利健亮は【資料3】の他で、「諸国郡郷名著好字令」(※3)の影響もあると指摘した。

※3 通称「好字二字令」。「倭」から「大和」をはじめ、中国から見て野蛮ではない漢字2字の地名表記に統一した。

例:「下毛野」を「下毛」よりは「下野」、「木」国を「紀伊」国、「津」国を「攝津」国、「火」国を「肥前」国と「肥後」国。

追検証 : 『万葉集』の表記「明日香」が「安宿」より先に存在したら、「飛ぶ鳥」が枕詞として成立しない。

→ **成功(論証)** : 地名漢字が「明日香」ならば、枕詞は「飛ぶ鳥」以外の言葉となる。 演繹

※「仮説」は、「検証(調査)」と「情報分析(考察)」により、立証された。

Activity6：「飛鳥」と書く地名を、「あすか」と読むのは、なぜか。**【自分自身】**で論述しましょう。また、論述する際には、論理的に表現することを意識しましょう。

下の枠内に4~5行でまとめてみましょう。

Activity7：Activity6の部分を**【各グループ】**で回観しましょう。他の人の文章を読み、どのように表現すると解りやすいか、気づいたことを記入し合いましょう。

下記の枠内の、上段にグループのメンバーから1行ずつ記入し、下段に自分自身で気付いたことを記入しましょう。

-
-
-

自分自身で気づいたこと

【参考資料】「今昔マップ on the web」

旧版の地形図(国土地理院発行)を無料で閲覧できるサービス。特定地域の複数年代の地形図を、新旧対照できる。

利用方法

①「今昔マップ」で検索。

②閲覧したい地域を

クリックすると、

右の様式の画面に。

③左半分の旧図を拡大・

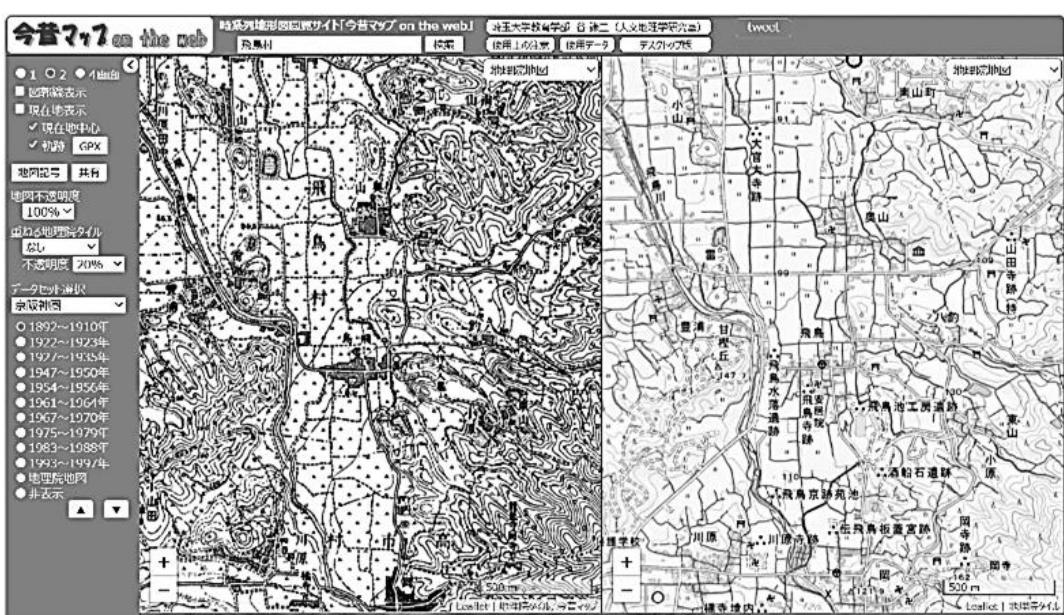
縮小やスクロール

すると、右半分の

新図も連動する。

④左下の年代を選択

すると、旧図が切り替わる(※)。



※ 選択した年代の旧図が未掲載の場合、左半分にも右半分と同じ新図が表示される。

【出典】(原典) 足利健亮『NHK 人間大学 景観から歴史を読む 地図を解く楽しみ』日本放送出版協会, 1997, 140-143 頁。

(増補) 足利健亮『景観から歴史を読む 地図を解く楽しみ』NHK ライブライ一(日本放送出版協会), 1998, 249-253 頁。

(改題) 足利健亮『地図から読む歴史』講談社学術文庫(講談社), 2012, 234-237 頁。

谷 謙二『『今昔マップ旧版地形図タイル画像配信・閲覧サービス』の開発』GIS-理論と応用 25(1), 2017, 1-10 頁。